まちづくりに大きく影響する道の駅の取り組みについて

［いせはら為成会］ 大山 学

Q 道の駅の現状の取り組みを伺う。

A【国県・企画調整担当部長】 本市は農業や観光業が盛んなほか、国道２４６号の南北に大規模病院が近接し、医療機関の立地性にも恵まれている。こうした地域特性を生かすため、平時には地域振興に資する拠点として、また、災害発生時には災害業務従事者が道路啓開作業や物資の搬送拠点とするほか、ＤＭＡＴ（災害派遣医療チーム）などの活動拠点として負傷者のトリアージや応急処置を行うなど、さまざまな活動を迅速かつ的確に行うことができる機能を兼ね備えた拠点の整備は、本市の将来にとって重要であると考える。そのため、本年６月、国土交通省および県に対し、国道２４６号との一体型での道の駅の設置に関する要望書を提出した。その後は、市内関係団体等への説明および意見交換を実施し、構想への賛同をいただいている。また、市内外の意見を得るため、道の駅設置に関するアンケート調査を開始した。調査結果をしっかりと分析した上で、今後の施策推進に向けて活用していきたい。

薬に疑問を持つこと、被害を訴えることは、健康に資する

［庶民］ 岸 圭介

Q 先日参加した研修会の中で、医薬品は被害が報告されることで安全性が増すことから、医薬品の被害を報告することは、被害者の義務であるとも言えると講師が言っていたが、市の見解を伺う。

A【健康づくり担当部長】 医薬品使用後に体調不良などの有害事象が起きた際、報告することにより、その情報は専門機関である独立行政法人医薬品医療機器総合機構に集約され、分析、調査により、注意喚起や処方方法などが改善されることがある。市民が医療機関を受診、薬局に相談することは、自身の健康を守るだけでなく、医薬品全体の安全性向上にもつながる大変重要な行動であると認識しているが、法的な義務として、市民に課されるものではないと考えている。

【その他の質問】

◎熊はなぜ人里に近づくのか ほか

児童コミュニティクラブのＩＣＴ導入について

［進風会］ 荻野 貴文

Q 入退館管理、混雑状況の見える化、保護者通知など、ＩＣＴの導入は安全確保と効率化に寄与し、利用実態を可視化することは重要であると考えるが、今後のＩＣＴ導入について市の方針を伺う。

A【こどもみらい部長】 ＩＣＴシステムを導入し、児童の入室情報をリアルタイムで把握し、保護者へ迅速に通知することで、安心感向上だけでなく、緊急時に児童の所在を確認できるなど、安全対策の強化にもつながると考える。

また、ＩＣＴを活用することで、個々の児童の、より詳細な利用実態をデータとして可視化でき、実態に即した利用調整に一定の効果が得られるものと考える。ＩＣＴシステムの導入実現に向け、市の直接導入のほか、より効果的かつ効率的な導入を実現するため、児童コミュニティクラブの運営委託事業者を公募する際に、ＩＣＴ導入を条件として提示したり、事業者選定時の評価項目に加えるなど多様な方法を検討していく。

【その他の質問】

◎いせはらの未来に向けた観光振興政策について

新たな交通モデルを進めることも必要ではないか

［いせはら為成会］ 越水 崇史

Q 公共交通の厳しい経営環境から、全国では撤退や廃止が続いている。自治体が主導し、新しい交通モデルを進めることも必要な時代になってきたのではないかと考えるが、市の見解を伺う。

A【都市部長】 公共交通空白地区等を対象に、日常生活の移動や地域にふさわしい交通手段の検討などについて意見交換を進め、バス事業者の動向等を踏まえて、地域と連携した交通モードについて検討を進めている。この検討の中では、地域と連携して取り組むことにより、利用者とバス事業者相互に利益を享受できること、また、道路運送法の許可または、登録を要しない「ボランティア輸送」を地域で活用することも検討していきたいと考えている。こうして構築された地域の移動環境確保の取り組みは、必要な地域にそのノウハウや、進め方を受け渡すなど、市域に広げていくことにより、移動環境の確保につなげていきたいと考えている。

市民の命を守るデジタル防災・減災の更なる推進を

［公明党いせはら］ 今野 康敏

Q 誰一人取り残さない防災情報を周知するために、さまざまな技術を駆使し、耳で聞くハザードマップを導入すべきと考えるが、見解を伺う。

A【危機管理担当部長】 まずは福祉所管課等との庁内協議の上、県防災連絡協議会などを通じて議論を深めたいと考えているが一方で、従来のアナログ手法による情報の伝達、収集も重要である。良好な地域コミュニティーの継続のため、多様な支援を行うとともに、災害時には回覧板や掲示板の活用など、アナログ手法も並行して活用することが重要と考える。

広報紙発行のサイクルを見直していくことも有効では

［志政会］ 前田 秀資

Q 広報いせはらを取り巻く環境変化が大きい中、月２回の発行サイクルの見直しが有効と考えるが、見解を伺う。

A【企画部長】 紙媒体のみであった時代から現在は、さまざまなデジタル媒体に市政情報の提供手段が拡充している。そうした中、それぞれの広報媒体の特徴を生かし、機能分担を図り、すみ分けをしていくことも重要だと考えている。広報いせはらの発行のサイクルの見直し等も含めて総合的に検討していきたいと考えている。

【その他の質問】

◎伊勢原駅北口再開発事業について

歳入確保と経費縮減の現状と今後の考え方について

［いせはら為成会］ 長嶋 一樹

Q 健全な市政運営を今後も継続していくために確実で継続的な歳入確保と徹底的な経費縮減が求められるが、歳入確保と経費縮減の現状と今後の考え方について伺う。

A【行政経営担当部長】 歳入確保については、国県支出金の既存の補助制度を積極的に活用するとともに、個人向けおよび企業版のふるさと納税のさらなる推進のほか、クラウドファンディングの活用など、全庁的に新たな歳入確保に取り組んでいく。歳出面については、令和８年度予算編成にあたり、各所属で執行を予定している事務事業を対象に事業の廃止を含めた検討を指示し、単なる廃止だけではなく、各事務事業を検証し、執行方法等の見直しを行うことで費用全体の適正化にも努めている。事業の再点検を継続的に繰り返し、より厳しい視点での経費縮減に努めていきたい。

【その他の質問】

◎本市の教育行政について

議会日誌

11月

- 11日・都市計画審議会
- 12日・兵庫県加西市議会視察来庁
- 19日・総務委員会協議会
- 産業建設委員会協議会
- 教育福祉委員会協議会
- 20日・全員協議会
- 議会広報委員会
- 25日・議会運営委員会
- 28日～12月18日・12月定例会

12月

- 4日・会派代表者会議
- 8日・総務委員会
- 9日・教育福祉委員会
- 11日・議会運営委員会
- 12日・議会運営委員会
- 18日・議会運営委員会
- 議会広報委員会
- 19日・秦野市伊勢原市環境衛生組合議会
- 産業建設委員会

1月

- 14日～15日・議会運営委員会所管事項調査
- 20日・全員協議会
- 議会広報委員会
- 21日・議会運営委員会
- 27日・1月臨時会
- 28日・県央八市議員合同研修会

市議会の日程

1月臨時会の開催予定

1月27日（火）本会議

3月定例会（予算会議）の開催予定

2月17日（火）本会議（提案説明）
24日（火）本会議（議案審議）
27日（金）委員会（付託審査）
3月2日（月）委員会（付託審査）
4日（水）本会議（予算総括質疑）
6日（金）委員会（予算審査）
9日（月）委員会（予算審査）
10日（火）委員会（予算審査）
16日（月）本会議（一般質問）
17日（火）本会議（一般質問）
18日（水）本会議（一般質問）
23日（月）本会議

＊本会議は、午前9時30分からです。